

# 日本災害看護学 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年7月21日(日)

活動隊員：網木政江

## 1. 活動期間

令和6年7月16日(火) 8時00分～2024年7月18日(木) 17時00分

## 2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町1字78番地）

珠洲市立宝立小中学校（石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83番地）

応急仮設住宅：正院町第1団地（珠洲市立正院小中学校・石川県珠洲市正院町川尻1部39番地）

宝立町第1団地（珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83）

## 3. 被害状況（7月18日14:00現在 石川県庁情報第146報）

人的被害 死者：114人 うち災害関連死：17人 負傷者：重傷47人、軽傷202人

住家被害 全壊：1,972棟、半壊：1,617棟、一部損壊：3,073棟、非住家被害棟 5,624棟

一次避難所 開設22カ所 避難者数292人

通水率 84.1%（4,034戸/4,791戸） 珠洲市情報

## 4. 避難所の状況

### 【避難者数】

1) 大谷小中学校 7月16日：25人（70歳以上4人、児童・生徒3人）左記以外に一時入所7人

2) 宝立小中学校 7月18日：45人

### 【避難所運営及び生活状況】

1) 大谷小中学校 訪問日時：7月16日（火）14時

避難所運営者から状況を伺った後、避難所内を回って確認した。体育館の入口側2分の1を生活スペースとして使用、段ボールベッドと各ベッドに低めのパーテーションを設置、個々のエリアも整理整頓されている。体育館1.5階を一時入所者用スペースとしている。1階に大型エアコンが8台設置されており快適な室温であった。食事は、朝は各自、昼は男性ボランティア1名が担当、夜は弁当となっている。トイレは、仮設トイレ2基あり清掃も行き届いている。入浴は仮設シャワールーム（2基）又は入浴施設を利用、シャワールームは陽射しで暑くなるためテントの中に設置され、よしずが立てかけてある。全自動型洗濯機1台が体育館入口に、二層式洗濯機がグラウンド横の倉庫の軒下に1台設置されている。グラウンドに建設中の仮設住宅は、基礎工事がほぼ終わった段階で、工事が進められている。

避難者の健康状態で気になる方はいないとのことであった。訪問時、避難所内で過ごされていたのは男性3人、その他の方は仕事や自宅の片付けに出かけていた。

2) 宝立小中学校 訪問日時：7月18日（木）14時

生活スペースは、1階の学習室、4年生教室、美術室、ランチルーム、4階会議室に分けられ、エアコンが使用され快適な室温であった。段ボールベッドと低めのパーテーションで仕切られ、整理整頓はされているものの個々のスペースは多くの生活用品に囲まれていた。水道、電気は

復旧済みのため、校内トイレを使用し、屋外の仮設和式トイレ4基、仮設スロープ付き身障者用トイレ1基はほとんど使用されていない。避難者が3班に分けられ、昼の炊き出しとトイレ掃除が当番制となっており、トイレは2日毎に清掃されている。食事は、朝は各自で摂取、昼は当番班による炊き出し、夜は弁当となっている。入浴は、仮設の浴槽付きシャワールームが2基設置されているが、異常な蒸し暑さとなるため、敷地内にある自衛隊風呂を利用する人が多い。現在、感染症の発生はなく、感染症状のある人もいないとのことだった。

## 5. 仮設住宅の状況

### 1) 正院町第1団地 7月16日(火) 17日(水) 18日(木)

全76戸。団地内の駐車場は比較的車の出入りが多い。日中不在の家も多いが、窓を閉めスクリーンを下ろしている家が大部分のため、在室か否かが分かりにくい。集会所は日中開錠されており、使用簿に記載の上、住民が使用できるようになっている。火・水・木曜日10~12時にお茶会「いっぷくせん会ね」を、毎週火曜日18時から「若者カフェ」を開催している。

### 2) 宝立町第1団地 7月17日(水)15時、7月18日(木)13時

全153戸、A~Dブロックに分かれている。平日日中の暑い時間帯でもあり、団地内で見かけた住民は数名であった。不在宅も含め入り口や窓を閉め切っている家が多いため、エアコンの室外機が動いているかが在室か否かの判断の目安となった。掲示板を見に来られていた女性は、「皆閉め切っていて顔が見えない」、「隣や向かいの生活音や電話の話し声が響くのでとても気を遣う」と話されていた。また、自治会単位で回覧板を回しているが、同じ自治会住民が疎らに入居しているため、離れたお宅へ回さなければならず不便さもあるとのことだった。

集会所では、毎週水曜日13~15時にお茶会「宝立集う会」を開催している。

## 6. 支援活動の実際

### 【地域コミュニティ支援】

#### 1) 正院町第1団地 いっぷくせん会ね(お茶会)

開催日時:7月16日(火)~18日(木)の10時~12時

開催場所:正院町第1団地集会所

参加人数:7月16日(火)26名、7月17日(水)13名、7月18日(木)12名

##### (1)7月16日(火)

BHNテレコム支援協議会による初歩スマホ教室があり、終了後に健康相談を実施した。スマートフォンの基本操作について、説明と各自のスマートフォンでの操作を繰り返す形で行われ、参加者から操作の質問があった際にサポートした。参加者26名のうち男性も約1/3おられ、普段より多かった。中には、埼玉県在住の男性が帰省中に近所の人に誘われ参加したという方もいた。健康相談では、血圧測定と併せて、服薬状況、睡眠状況、食事摂取状況等を確認し、降圧剤の服用忘れがあった方、塩分の過剰摂取気味の方には個別対応をした。

##### (2)7月17日(水)

血圧を含む健康状態の確認後、珠洲市の介護予防体操とお笑い体操(山口県防府市のお笑い講の神事を基に考えられた健康体操)を計30分程度実施した。お笑い講の歴史の話は興味をもってくださり、その後のお笑い体操では、「わっはっはっは、わっはっはっは」と大きな

声を出しながら、体を大きく動かす体操をした。靴下を履いておられるため、立ってされる方には予め滑らないよう注意を促し転倒に留意した。リクエストがあり2回実施、子どもたちにも教えてまたやりたいと好評であった。

血圧はやや高めの方が多く、震災から血圧が上がったと話される。随伴症状を認めないものの収縮期血圧が170~180mmHg(普段150台)の方には、帰宅後も少し安静にして注意するよう説明した。また定期受診をされているが降圧剤は処方されていないため、血圧を記録し次回受診時に医師に相談するよう伝えた。朝のエリア会議で不眠の人が多という情報があったが、この日の参加者に睡眠障害のある方はいなかった。

### (3)7月18日(木)

うちわ/扇子作りと健康総相談を実施した。うちわ又は扇子を選んでもらった後、シャボン液に絵の具を混ぜて泡立て、泡で模様をつけてオリジナルのうちわ/扇子を作成した。乾燥を待つ間にお茶会と並行で健康相談を実施、17日に血圧が高かった方のフォローアップを行い、普段の血圧値に戻っていることを確認した。定期的な血圧測定(同じ時間又はお茶会参加時)及び記録と、次回受診時に医師に相談するよう再度伝えた。午後からテレビ取材が予定されており担当者はその準備もあったため、昼休憩がとれるようお茶会の後片付けを担当した。

## 2)宝立町第1団地 宝立集う会

開催日時:7月17日(水)13時~15時

開催場所:宝立町第1団地集会所

参加人数:7名

珠洲市福祉課健康増進センターと食生活改善推進協議会による男性料理教室が行われ、男性7名の参加があった(1名欠席)。バランスの良い食事についての講話後、豆乳坦々そうめんと夏野菜の焼き浸しを作った。参加者は、家で食事を作ることはほとんどない方が多く、中には台所に立ったことがないという方もいたが、積極的に参加されていた。途中会議のため中座したが、あとからお聞きすると、参加者は地区役員をしておられる方々でいつものメンバーということだった。調理の準備が進められていたこともあり血圧測定の希望者はいなかったが、健康面に関する訴えは特になく、定期受診もきちんとしているとのことだった。

今後の課題は、お茶会などに参加したことのない男性に参加してもらうことである。主事が蛸島地区で落語と切り絵を行った時に男性が多く集まったという情報を得ておられ、男性が参加しやすい内容や方法を検討していきたいと話されていた。

## 【避難所支援】

### 1)大谷小中学校

避難所運営者に避難所の状況を確認した際、労いの声かけをし、復旧に対する思いなどを傾聴した。自身の生活再建もある中で、避難所や地区を支える立場として、もっとできることがあったのではないかと苦悩があることが表情からも伺えた。

### 2)宝立小中学校

訪問時に避難所で過ごされていたのは5人であった。80歳代の男性の健康観察を行った。元々一人暮らし、仮設住宅入居待ちの状況であった。健康面では、糖尿病と緑内障があるが自立され

ており、定期受診および服薬や点眼の自己管理もできていた。食事は避難所で提供されるものを摂取しているが、血糖コントロール状況は「(受診時)血液検査はしなかった」と言われ詳細は不明である。近くにある自分の畑に行くなどして適度な活動もできており、ADL 低下は認められなかった。しかし、大臣が視察に来られた際、「気力、体力、努力と言ってもこれ以上もたない」と伝えたと、長期化する避難所生活に対する思いを語られた。

## 7. 支援活動を通しての所感と課題

発災から7か月が経過し、復興を見据えつつ復旧を加速化させたい市の思いと、公費解体が進まない等で生活再建の見通しが立たず目の前の問題に直面している住民との間にギャップがあることを知った。また、応急仮設住宅が先に建設され、集会所を活用するなど新たなコミュニティ構築の取組みが進む地区がある一方で、これから代表者を決める話し合いが進められる地区、応急仮設住宅が建設中の地区、集会所のある仮設団地とない団地など、**地区事情により復旧の進み方が異なり、住民が地区間の差を感じておられると感じた**。住民それぞれの立場によって困り事や心配事、抱えているストレスは異なるが、相談したり、思いを共有したりできるお茶会等の場が大切であることを改めて感じた。今後、お茶会の開催地区も10地区全てで行われるよう拡大される方針である。お茶会を新たにスタートさせるための支援とともに、すでに行われている地区では参加者が固定化してきている傾向もあるため、参加できていない人が参加しやすい工夫と、取り残される人がないように戸別訪問と併せて丁寧に見ていく必要がある。ささえ愛センターでは、センター携帯電話からの連絡に出てもらいにくいことへの対策や、平日の日中に会えない方への対応が検討され、緊急性、優先性を考慮した訪問も予定されている。これにより、新たなニーズや課題が出てくることが考えられるため注視していきたい。

現在、正院町第1団地では、お茶会と並行して集会所を活用した夏休みに向けて子どもたちの居場所作りの準備が進められている。また、旧正院保育所を活用し、住民の会合や公民館行事のほか、子どもの居場所作りをしていくことが決まっている。仕事をもつ親御さんの支援と子どもたちの学習と遊びの場作りということだが、対象が子どもであることを考慮し安全面への留意が必要である。

## 8. 写真



写真 1. 健康体操の様子（正院集会所）



写真 2. うちわ/扇子作りの様子（正院集会所）



写真 3. 応急仮設住宅（宝立町第 1 団地）



写真 4. 大谷小中学校グラウンドに建設中の応急仮設住宅